

第8回丘珠空港機能強化検討会 議事概要

日 時：令和6年8月7日（水）15：00～15：50
場 所：TKP札幌カンファレンスセンター ホール6A
出席者：委員20名、札幌市（事務局）4名

1 開会

(1) 挨拶（札幌市 天野副市長）

- ・ 丘珠空港では、近年の新規路線の就航などにより、昨年度は現ターミナルビルが開業した1992年以降で初めて40万人を超えたところであるが、現ターミナルビルや駐車場等、空港施設が手狭となってきており、混雑する状況が多く発生している。
- ・ さらに、今年の7月から名古屋（小牧）線が1往復増便し、新潟線がデイリー運航するなど、今年度は更なる旅客数の増加が見込まれる。
- ・ このような中、空港の混雑がピークを迎える夏に向け、シャトルバスの運行や臨時駐車場の開設、保安検査場の混雑緩和を進めている。
- ・ 一方で、欠航が多く発生した昨冬のようなことを繰り返さないように、除雪体制の強化についてもしっかりと検討していかなければならないと考える。
- ・ 引き続き、関係の皆様と共通の認識を持って、2030年に向けて取組を進めてまいりたい。

2 議事

(1) 設置要綱の改正について

- ・ 今年度も検討会を継続して開催するとともに、今年の1月に丘珠－新潟線を新規就航したトキエア（株）を構成員に加えさせていただくことを、設置要綱に反映した。
⇒全員異議なし

(2) 時間軸・優先度で整理した課題・対応の方向性の検討・取組状況

- ・ 前回までの検討会で整理した各検討項目の想定される課題・取組の方向性について、各実施機関から現時点の取組・検討状況を説明していただき、意見交換を行いたい。
- ・ 今後の増便への対応として、安全運航の確保に向けた空港用地の拡張について、丘珠空港周辺地域連絡協議会や周辺地権者への説明を行っている。
- ・ また、航空機騒音調査は昨年度から冬期にも調査を行っており、その結果について、広報さっぽろを活用して情報提供を行ったほか、今年度からは地元の要望も踏まえ、10地点であった騒音調査の箇所を2地点追加し、全12地点で調査を実施する。
- ・ 空港ターミナル地区機能強化については、周辺地域の意見やニーズの把握として、丘珠空港周辺地域連絡協議会やオープンハウス型意見交換会、郵送アンケート調査、地域ワークショップなどを行っている。
- ・ 把握した地域のニーズや意見を踏まえ、「札幌丘珠空港と周辺地域の共生に向けた基本構想」の策定を進めており、目指すべき方向性としては、安全運航や騒音などの環境を守ること、地域メリットを創出することであり、主な取組として「環境への配慮」「安全運航の確保」「空港ターミナルビルの機能拡充」「緑地機能の維持・向上」「産業振興・機能集積」「交通アクセスの改善」を上げている。

- ・ 2次交通に対する検討について、シャトルバスの実証実験を8月1日から行っており、地下鉄栄町駅から丘珠空港までの運行便数を24便増やした。
- ・ 丘珠空港の駐車場混雑の緩和については、札幌市有地を活用した臨時駐車場を8月15日から開設する予定であり、丘珠空港までの無料送迎も行う。
- ・ 地下鉄とバスの乗換改善策として、開札からバス乗り場までの案内表示について昨年度末までに改善を行った。
- ・ 保安検査場の混雑緩和対策として、QRコードの読込器を1台追加して案内役を1名配置し、保安検査直前で行っていた読み取りを手前で行うことにより、混雑の緩和を図っている。
- ・ ダイヤの調整については、航空各社や丘珠駐屯地と連携しながら進めている。
- ・ 中長期的な方向性としては、更なる増便を目指していくところであるため、状況をみつつ調整を進める必要がある。
- ・ 管制体制については、今後の増便や運用時間の拡大等も見据え、人員の増員や機材の更新など、体制強化に向け調整している。
- ・ 除雪体制の強化については、融雪剤散布機材及び融雪剤の確保に向け調整している。降雪により滑走路の運用が止まらないように調整していきたい。
- ・ 除雪機材の更新については、高機能の機材を導入できるよう調整していきたい。
- ・ 昨年度の冬期運用の振り返りを行い、効果的な除雪の実施に向け調整を行っている。昨年から試行運用している凍結防止剤の散布ボックスについては、旅客の転倒防止に一定の効果があつたとの声を航空各社からいただいている。
- ・ ターミナル地区の必要規模や配置、施設計画の検討として、ターミナルビル基本計画の検討状況を踏まえ、ターミナル地区の機能向上に関する調査検討を実施する。
- ・ 中長期的な取組として、丘珠空港を含めた民間委託外の空港に対して、路線誘致の補助を行っており、今後も継続していきたい。
- ・ 新千歳空港のビジネスジェット専用施設について、運航会社へのヒアリングを行ったところ、「専用施設があると利用しやすい」との声をいただいている。千歳ではなく北海道への来訪が目的と認識しており、丘珠空港とも連携しながら、更なる利便性の向上を図っていきたい。

(3) その他

- ・ 2030年に向け、現状に関する情報共有を行うため検討会を開催したが、各機関において現状で行えることを少しずつ進めていることが共有できた。
- ・ 航空各社の立場としては競争という側面もある中で、丘珠空港の機能強化に向け連携できる部分が多くあるとも感じるため、引き続き情報共有を密にしながら進めていきたい。
- ・ 2030年の滑走路延伸を目標に掲げており、札幌市としても皆様と協議させていただき、年間旅客数100万人を目指す上で、現段階で出来ないということが無いよう、しっかりと取り組んでいきたい。

以上